

平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	安芸太田町立加計小学校	校長氏名	藤田 覚治	生徒指導主事氏名	林谷 哲幸
-----	-------------	------	-------	----------	-------

取組事例名 『ファンファーレ合宿』

取組のねらい『キーワード：連帯感・主体性・社会性』

家を離れての3泊4日の宿泊体験活動を通して、生活全般にわたって自立する力を育むことをねらいとした。

また、様々な体験活動において個々の役割を明確にし、事前準備をすることを通して、責任感を育てることもねらいとした。

さらに、宿泊先の方や指導に来てくださる方々と積極的にふれ合える場を設定することにより、コミュニケーション能力を向上させ、社会生活を営む上での人と関わる力を育てることもねらいとした。



取組の具体的内容『キーワード：役割・責任』

5・6年生全員がファンファーレ・バンドの宿泊体験活動を行った。

パートごとに6つの班に分け、大学生ボランティアの方々に教わり、パートリーダーを中心としたグループ活動のよさを取り入れながらパート練習をしたり、全体練習をしたりした。飯盒炊爨では、協力してカレーライスやサラダ作りをした。水生生物調査や川遊び等を計画の中に組み込み、様々な体験活動を行った。また、利用させていただいた施設を清掃する活動等を通して感謝の気持ちをもたせた。さらに、自己存在感をもたせる為、一人一人に役割や責任をもたせ、振り返る活動も取り入れた。



取組の課題・創意工夫『キーワード：明確化』

○練習を重ねることで自分たちの伸びを実感させる為、評価を細かく行った。また、最終日にコンサートを開き、保護者、地域の方へ演奏を披露するというゴールを明確にすることで意欲の向上を図った。

○しおりを工夫し、自分の役割を明確にさせるとともに、全体像を明らかにすることで主体的な行動へとつなげていった。

○自己決定する場を主体的に組み込むとともに、お互い演奏について助言し合うことを取り入れ、共感的な人間関係をより深めるようにした。



取組の成果（効果）『キーワード共感的人間関係の育成』

3泊4日の宿泊体験活動を通して、活動予定表を自分たちで確認しながら、次の行動は何をするのかを考えて5分前行動をすることができた。

一人一人に役割を与え、自分の役割を果たすために準備をし、責任をもって最後までやり切らせる活動をさせた。そのことを小グループや全体の場で認めていくことで、自信をもって活動することが



できた。

大学生ボランティアの方との交流を深めていく中で、自分や相手を大切にしたりした行動や自己表現ができるようになってきた。

最後に演奏会を行うという明確なゴールに向けて、一人一人が目標をもって取り組んだ。細かく評価をしていくことで、自分たちの成長を感じることができ、自己有用感につながっていた。

友達と寝食を共にする中で、お互いのよさに気づくことができた。また、お互いに声をかけ合い、助け合いながら活動していく中で、共に活動する

楽しさや成就感を味わわせることができた。

児童の日記には、「合宿を通して、一人でできるようになったことが増えたことに気づくことができた。」「合宿で協力してできたので、他の活動でも生かしていきたい。」「5年生と6年生の絆が深まった。」など、肯定的にとらえることができていた。

今後の展開『キーワード：褒める』

学級活動や日々の授業の中でも、自ら考え、主体的に行動する力を育てる。また、そういった場面が見られた際には、適切な評価を行う。



他校へのアドバイス『キーワード：保護者の理解』

保護者の理解や協力がないと宿泊体験活動を行うことは、とても難しい。保護者からは、自分だけでなく、自分も含めたみんなのために頑張る・協力する・努力する・時には我慢するということが身につけてきている・責任感が身についた等の肯定的な評価が多く見られた。